

大 学 図 書 館 問 題 研 究 会 京 都

URL : <http://www07.u-page.so-net.ne.jp/rg7/dtkk/index.htm>

〒 607-8175 京都市山科区大宅山田町 34 京都橘女子大学 企画調査課 田北十生気付

(Tel) 075-574-4112 (Fax) 075-574-4151

大図研京都

第24回京都支部総会のご案内

と き 6月29日(金)午後7時～

と ころ キャンパスプラザ

(JR京都駅前)

会員の皆さんの参加をお願いします!

大図研京都セミナー2001

「ネットワーク環境下における図書館サービス」

●ホームページからも参加申し込みができます!

<http://www07.u-page.so-net.ne.jp/rg7/dtkk/occ.htm>

第3回 6月23日(土) 14:00～15:30 講演 15:40～17:00 質疑

大城善盛氏(同志社大学)

「ネットワーク時代の情報リテラシー教育」

第4回7月14日(土)

「メタデータと図書館」

講師 北克一氏(大阪市立大学)

第5回8月4日(土)

個人研究発表(3本)

開会 いずれも14:00～

会場 キャンパスプラザ

目次	大図研第24回京都支部総会のご案内.....1頁
	大図研京都セミナー2001のご案内.....1頁
	大図研第24回京都支部総会議案.....2頁
	セミナーアンケートのまとめ.....5頁
	5月セミナーの「電子図書館の評価」感想.....7頁
	会費納入のお願い.....10頁
	第8回支部委員会の報告.....10頁

ご意見・ご要望、投稿はメール、又はFAXで
編集気付(dkamar302@kyoto.zaq.ne.jp) takitaまで

大学図書館問題研究会

第24回京都支部総会議案

〔第1号議案〕

2000年度活動総括及び2001年度活動方針



はじめに

昨年度、発足した「国立大学等の独立行政法人化に関する調査検討会議」は、5月にも中間論点整理が出ると言われています。そこでは独立行政法人通則法の枠内での、法令面での措置や運用面での対応など制度の内容についての具体的な検討をすることになっていますが、通則法の問題点として、(1) 主務大臣による中期目標の指示と中期計画の認可、(2) 主務大臣による学長の任免、(3) 教育研究に対する評価があげられ、結果的に「評価による資源配分」による大学の再編・淘汰に結びつく可能性を有しています。

ところで5月11日の国会答弁で小泉首相は国立大学の民営化に肯定的な発言をしていますが、新内閣の文教政策が今後、どう展開するのか注意深く見守る必要があります。(※5月現在)

一方、私立大学の経営環境は少子化による入学志願者減、「定員割れ」といった形で厳しさを増しており、これに対して民間企業並みのリストラで競争力の向上をはかろうとしています。このような厳しい状況の中で、全国の私立大121校が加盟している日本私立大学連盟が、学校運営の基本事務作業を一括して受託する新会社を、加盟各校の共同出資で設立し、各大学が個別処理していた業務を外注化し、大幅な経費削減を目指して動きはじめています。

このような状況の中で、大学の一部署である図書館はどのような対応をとればいいのか。大学コンソーシアム京都是今年の3月に、大学図書館が連携して共同利用や市民への開放事業を進める「京都文化学術情報図書館機構(仮称)」の設立を決めました。

5年計画で大学図書館のネットワーク化を進めようとしています。市民への開放事業については現在、大学ごとに対応が異なりますが、今後は各図書館が共同して推進し、大学図書館を京都全体の知的財産として市民に活用してもらう方向で進んでいます。このような開放事業にまで踏み込んだ大学図書館の連携は、全国でも例がなく、注目すべき動きといえます。

現在、情報技術の発展が図書館のあり方そのものを大きく変えつつあります。図書館が扱う対象が拡がりを見せ、とりわけネットワーク下のデジタル情報の利用が増えてきています。これに対応して図書館員には従来のレファレンス能力に加え、情報ナビゲーター的な能力が必要とされるようになってきました。このように現場の図書館員は、予算と人員の抑制の中で、サービスの多様化、高度化を迫られています。このような時にこそ、ひとりひとりの専門的力が問われますが、私立大学では図書館員の配転が常態化し、現場での経験の蓄積というものが成り立たないという状況になっています。

また専任職員はマネジメント業務を担当し、派遣職員や臨時職員が実務を担当するという構図が拡がりつつあります。

こういった困難な条件の中で、個々の図書館員の能力のレベルアップをはかるためには、雇用形態を問わず、すべての図書館員が協力し合い、情報の交換や研修の機会が継続的に提供されることが必要です。そのことが結果として利用者へのサービス向上につながることを積極的にアピールしていかなければなりません。また、幅広い人的ネットワークを築いて、利用者や書店・出版関係者とも積極的に交流し、良好な協力関係を築いていくことが必要です。

大学図書館問題研究会京都支部では、このような状況を踏まえ、図書館員のより高度な力量形成に向けて活動を展開して来ました。

1. 2000年度活動総括

(1) 大図研京都セミナー2001の開催と会員間交流の発展

今年度は連続講習会として大図研京都セミナー 2001 を企画し、4月より開始しました。このセミナーは「ネットワーク環境下における図書館サービス」という統一テーマのもとに4月から毎月1回のペースで、連続5回予定しています。情報ネットワーク技術の発展により、図書館サービスのあり方も急激に変化しています。この連続企画では、そのさまざまな側面に焦点をあてる予定です。

今回、特筆すべきこととして、ホームページからの申し込みが多かったことがあげられます。まさにネットワーク環境下における大図研活動のひとつのあり方をあらわすものといえます。

(2) 支部報

会員間の交流を深めるのに一定の役割をはたしている好評の「数珠つなぎ」については、執筆者を京都支部会員に限定せず、他支部にも広げるとの方針のもとに、継続しています。また大図研京都セミナー開始に先だって、関連記事を掲載するなど、支部活動と密接に連携した編集を企画することに努めてきました。支部委員会の内容もこまめに報告し、最新の支部活動を伝えるべく、努力してきました。

(3) ホームページとメーリングリスト

昨年2月に開設した京都支部のホームページは、大図研の会員のためだけでなく、会員外の人に対する広報に重要な役割をはたしています。その結果、ホームページの申込欄を通じた入会者があつたり、会員外の人が行事に参加を申し込んできたりといった注目すべき動きが出てきています。

メーリングリストについては、支部委員会報告や行事の案内などコンスタントに情報を会員に提供しています。

(4) 組織活動

会員数は93名(2000年7月現在)から91名(2001年6月現在)と減少しています。入会者が5名、退会者は7名がありました。

会員の獲得については、あらゆる機会をとらえ、積極的に勧誘を努めた結果、徐々に効果を挙げてきていますが、退職による退会者が上回ったかたちになっています。引き続き、組織的な取り組みが必要です。

(5) 財政活動

財政活動については、支部委員会として毎月状況を把握するとともに、前年度に引き続いて積極的な会費納入の働きかけを行った結果、2000年度会費の納入率は6月現在で85%に達しています。

2. 2001年度活動方針

(1) 研究活動のさらなる発展と会員間のコミュニケーションの重視

今年度も研究活動の充実をはかるとともに、会員間のコミュニケーションを促進するため支部報の発行をはじめ一層の努力をします。

また直接に会員に声をかけ、積極的に交流の機会をつくることに努めます。

(2) 研究集会について

4月から開始された連続企画の大図研京都セミナー 2001 については、第5回まで引き続き円滑な運営に努め、実りある成果をあげるべく努力します。

秋以降についても、新機軸の活動を企画し、会員の専門的力量形成に役立てます。

(3) 支部報について

今年度も毎月の発行をめざします。

会員の多様なニーズに応え、読んで興味を持てる内容になるよう努力します。

読みやすい紙面づくりを心がけます。

できるだけ多くの人に執筆していただけるよう努力するとともに、投稿規定も整備します。

(4) 会員を増やす活動

大学図書館問題研究会および京都支部の活動を説明し、会員を増やす活動を進めます。特に若手の会員を増やし組織の若返りをはかることを重視します。

そのために魅力ある企画を立てるように努力します。

(5) 会費を全員が前納します。

会員としての義務である会費納入を全員が確実に行いましょう。

財政活動を一層前進させるため、支部委員会において、毎回担当者から報告と提案を受け、全員で討議するなど集団的取り組みを強めます。

また、個々の会員に積極的に声をかけ、会費納入をはたらきかけます。

付：活動日誌

2000年

- 9月29日(金) 第23回京都支部総会(京大会館)
- 10月17日(火) 第1回京都支部委員会(京都大学附属図書館)
- 11月7日(火) 第2回京都支部委員会(京都大学附属図書館)
- 12月5日(火) 第3回京都支部委員会(京都大学附属図書館)
- 12月7日(木) 京都支部忘年会(「パンプキン」左京区百万編)

2001年

- 1月16日(火) 第4回京都支部委員会(京都大学附属図書館)
- 2月14日(火) 第5回京都支部委員会(京都大学附属図書館)
- 3月6日(火) 第6回京都支部委員会(京都大学附属図書館)
- 4月10日(火) 第7回京都支部委員会(京都大学附属図書館)
- 4月28日(土) 大図研京都セミナー 2001
第1回「デジタル時代の出版メディア」
会場：キャンパスプラザ京都
講師：湯浅俊彦氏(旭屋書店)
参加者数：40名
- 5月8日(火) 第8回京都支部委員会(京都大学附属図書館)
- 5月26日(土) 大図研京都セミナー 2001
第2回「電子図書館の評価」
会場：キャンパスプラザ京都
講師：谷口敏夫氏(光華女子大学)



参加者数：40名
 6月5日(火) 第9回京都支部委員会(京都大学附属図書館)
 6月23日(土) 大図研京都セミナー2001
 第3回「ネットワーク時代の情報リテラシー教育」
 会場：キャンパスプラザ京都
 講師：大城善盛氏(同志社大学)
 参加者数： 名

【第2号議案】2001年度より支部会費を年額2000円にする。

- 理由
1. 研究交流集会を充実するための財源を確保する。
 2. ホームページ維持費など新たな支出項目が増えている。
 3. 支部報の毎月発行を維持するための印刷費と郵送料を確保する。

解説

支部の財政活動については、従来支部委員会でも重視して、会費納入率のアップに向けて全力を傾けて取り組むとともに、経費節減にも努めてきました。しかし、研修会、交流会の充実やホームページの維持など、支部活動を積極的に積極的に展開するための予算が現状では十分とはいえません。支部報についても、支部委員のいる職場では手渡しで配布し郵送料を節約するなどぎりぎりの経費でやりくりしてきました。今後の支部活動の財政基盤を強固なものにするために、支部会費の値上げを提案します。

- 【第3号議案】2000年度決算報告(議案は当日配布)**
2001年度予算及び会計監査報告(議案は当日配布)

- 【第4号議案】2001年度支部役員選挙(議案は当日配布)**

@@

**大図研セミナー2001年
 第2回アンケートのまとめ**



報告者：大館和郎

I. アンケートの集計結果(参加者：40名 回収：27通)

1. 講演について
- 1) 講演の時間
 - A. 適当(27) B. 長すぎる(0) C. 短すぎる(0)
 - ・もう少し聞きたかった。
 - 2) 講演内容
 - A. 期待以上(4) B. 期待とおり(19)
 - C. 期待はずれ(3) D. その他(2)
- => C. D. の特徴的意見
- ・比較のネタが全て、国立大学というのが面白みに欠けた。
 - ・タイトルと内容が不一致である。
 - ・期待していた内容とはちがったがおもしろかった。

- 3) 講演で興味深かったこと
- ・電子図書館＝図書館＝ホームページという自然な連想を前提に評価しているところ。
 - ・ホームページの比較がおもしろかった。次は私立大学をしてほしい。
 - ・3大学のHPの比較評価に興味深かった。やはり利用者の知識のレベルすべてにうまく対応できるようなものを考えるべきだと思ったし、よく考慮されたHPはやはり見る人が見れば分かるものだと思った。
 - ・「評価」にあたって、自分では気づかなかった視点を提供してくれたこと。
 - ・各大学ホームページの情報の評価項目。
 - ・評価方法。評価基準と視点。
 - ・「電子図書館」を体系的に評価するこのような機会は今までなかったので、非常に勉強になった。
 - ・評価の視点としての要求論、価値論に関するお話が印象的だった。
 - ・3つの大学図書館のHPを具体的に知ることができ、興味深かった。
 - ・データ更新履歴を残すという考え方。
 - ・履歴を残した方が良い。誤りもすべて保存するのが図書館のあり方だという話になるほどと思った。アメリカの図書館が司書の情報もものせている点、専門をもつ大切さ、責任感を持つ事のあらわれだと思った。
 - ・アメリカの大学では、司書の詳しい情報（専門分野等）が顔写真とともに明示されている話。
 - ・policyを明確にすべきということ。
 - ・ポリシーの話がおもしろかった。
 - ・電子図書館のポリシー、図書館員の個人の責任の明示といったことが、あらためて捉えられた。
 - ・私がイメージしていた電子図書館と、今回のお話を伺った電子図書館のあり方にギャップがあった。私が考えていた電子図書館は（貴重資料などの）アーカイブ的なものであったため。
 - ・それぞれの図書館独自の事情が聞けて（職員、HP etc.）楽しかった。
- 4) 質疑応答の時間（80分）について
A. 適当（22） B. 長すぎる（4） C. 短すぎる（0） 回答なし（1）
- 5) 質疑応答の進行について
A. 良い（7） B. ふつう（15） C. 悪い（0） 回答なし（4）
- ・責任論は重要なテーマだが、それに偏りすぎたのでは。
 - ・司会者が指揮をもっととってくれたら。
 - ・司会の方がコーディネーターをつとめて仕切るのも一方法だが、なるべく参加者全員に発言できるようなしかけ（例えば事前に課題を与えるなど）が必要では。
- 6) 講師への質問
- ・「サイトの構造」に関する評価を聞いてみたい。
 - ・電子図書館についての私の（片寄った）考えが、今回、お話を伺ってかなり是正されたような感じである。過去の文化財を中広く発信するだけでなく、現在の知の蓄積を広く発信する手段としても重要だということがわかった。名札と個人の責任の話がクローズアップされたのは興味深かった。ネットワーク、バーチャルなどと言われながら、行きつくところは生身の「個人」なのか。今後のネットワーク、IT社会（日本で）を考える上で「個人」と「組織」「社会」の問題を考えることは、益々、重要になるのではないだろうか。
 - ・どうしてホームページ第一面を評価対象にしたのか。

II. セミナーについて

- 1) セミナーを何で知ったか
A. メーリングリスト（6） B. ホームページ（7） C. 支部報（4）
D. 雑誌（0） E. ちらし（1） F. 知人のすすめ（5） G. その他（2）
- ・学内図書館LANにて。
- 2) セミナーの開講形式について
A. 適当（17） B. もうすこし頻りに（0） C. もう少し間をあけて（1）
D. 平日の5時以降（0） E. 日曜日に開催（1）
F. その他（1） ⇒ コメント：土曜日の午前10時ごろから始めてほしい。
- 3) 興味のあるテーマ
A. 電子図書館（7） B. 電子ジャーナル（5）
C. 資料の組織化（電子的資料を含む）（5）
D. 資料の保存、修復（電子的資料を含む）（4）
E. 資料の電子化（4） F. 著作権（4） G. 職員問題（9）
H. 図書館システム（3） I. 図書館経営（8）
J. ガイダンス・利用者教育・情報リテラシー教育（9）
K. 学術情報の流通（8） L. 図書館の自由（2） M. 障害者サービス（1）
N. 利用サービス（OPAC含む）（4） O. 情報ネットワーク（5） P. その他（0）

4) セミナーの受講料

- A. 期待以上 (4) B. 期待とおり (19) C. 期待はずれ (3) D. その他 (2)
 5) セミナーについての意見
 A. 期待以上 (4) B. 期待とおり (19) C. 期待はずれ (3) D. その他 (2)

大図研京都セミナー2001

5月(第2回)セミナー「電子図書館の評価」の感想!



京都大学附属図書館 天野 絵里子

今月のセミナーの内容は、「電子図書館」を評価する端緒としていくつかの大学のホームページ、それも第一面(トップページ)を設定し、基準を定めてそれぞれについて比較・評価をおこなうというものでした。

最初はとても意外な感じがしました。なぜなら、京都大学に勤務していると特にそう思えるのですが、フィジカルな図書館と、電子図書館—ヴァーチャルな図書館—とは別な存在として捉えていたからです。附属図書館のホームページにいたってはやはり、フィジカルな存在としての図書館との関係が深く、別に存在する「電子図書館」のホームページをさしおいて附属図書館のホームページが取り上げられるとは思ってもみませんでした。

それにもまして、なにしろ日頃の業務でこのホームページの作成を任されているのが現在私が配属されている部署であるということもあり・・・身を引き締めて先生のお話を聞くより他ありません。

幸い、取り上げられた三大学の中では概ね好評をいただくことができたのにはほっとしたのですが。

ところで今回評価の組上に上がった「附属図書館のホームページ」ですが、他の多くの例も含めると、現在は、フィジカルな図書館の、利用者に開かれた門戸の(代替の)一つとしてごく簡略な機能を有しているに過ぎないと私は思います。しかし、「電子図書館とは何か」、という議論には組せず、「図書館が Web 上で持てる機能、また、展開できるサービスとは何か」という視点で見たとき、図書館の「ホームページ」は新たな可能性を持っているのではないかとも思います。

その可能性に向けて方向転換しつつある図書館のホームページも散見されますが、多くの図書館のそれを見てもなかなかその枠を抜け出せない、一方で、様々な、でも決して極めて高度ではない技術を駆使して、多彩な機能を Web を通じて提供している企業や機関のサービスがあります。例えば ISI 社の Web Of Science は、Web を通じた SSCI, etc. の提供ということにとどまらず、その環境を活かして、幅広い検索ができるように工夫がされて、フィジカルなサービスとの差別化を図り、それが「売り」となっています。

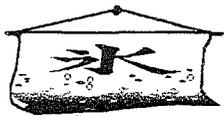
この「ネットワーク環境」を活かし、建物としての図書館のそれとは矛盾せず且つ違った発想で、ホームページを通じて、よりよいサービスが提供できるのではないかと、そしてどんなことができるだろうと、今回のお話をうかがいながら、いろいろと考えてしまいました。今後の図書館の「売り」とは、と。

「電子図書館」と「図書館のホームページ」とはどのような関係を持つにせよ、同じ意義を担っているのかもしれませんが。最初は意外に感じてしまいましたが、谷口先生が「電子図書館」の評価にあたって「附属図書館のホームページ」を選択されたのも自然なことなのでしょう。

さて、後日談ですが、セミナーのレジュメを失礼ながら職場でじっくり拝見させていただき、ご指摘のあった箇所をすぐさま改良してホームページをアップデートしたことは言うまでもありません。

大図研京都セミナー2001

5月(第2回)セミナー「電子図書館の評価」の感想!



京都大学工学研究科・工学部電気系図書室 赤澤久弥

<テキストと情報学：異聞やまとしうるはし>というサイトをご存知だろうか。図書館情報を探して彷徨中に見つけたこのサイト、コンテンツは図書館に止まらず、古今東西、森羅万象!? 時には煙に巻かれつつ手繰るリンクにふと気が付けば、あれ、なにを探していたのやら。一度そこに迷い込んで以来、ぜひお会いしたかった「ムアディブ」を名乗るかのサイトの主、谷口敏夫先生に『電子図書館の評価基準と方法』をテーマにしたお話を聞く機会を得た。幾分堅めに始まったかにも思えたが、京大・東大・筑波大のサイトを俎板に載せて評価された後半部には、次々軽口も飛び出して、ああ、確かにあのムアディブ様。

電子図書館評価の視点の中でとくに考えさせられたご指摘は、次の二つだ。

- ・名称、所在地、連絡先、質問先などのアクセスポイントが網羅されているか。
- ・その成立の歴史、目的、意義など、つまりはどんなポリシーに従って世界に開示されているか、の表明があるか。

そして、これらがサイトの第一面に簡明なデザインで表記されているか? ということ。実際の評価モデルの項目は、改訂日付、サイトマップ、ニュースの有無など多岐に渡ったのだが、国内の図書館サイトで上の二つに及第点をつけられるところは、意外に少ないのではないだろうか。

そこで思い至ったのが、海外の図書館サイトなどのトップページでしばしば見かける、'Contact Us' そして 'About Us' のように示されるメニューである。例えば、工学分野のサブジェクトゲートウェイ、< EEVL > というサイトがある。ここでは、'contact' として、組織の連絡先からスタッフの名前（そういえば個人の名前を出してサービスするかどうかも討議の話題であった）と連絡先などが列記されている。また、'about' では、どのようなサービスを提供しているか、何を選択しているのか、さらに現在までのサービス展開の経緯とこれから何をするのか、等々を知ることができるのである。

もちろん日本の図書館サービスの体制によるところもあるだろうし、単純に比較はできないかもしれない。しかし、資本を投下されてサービスを提供する組織にどって、少なくとも己が何者で何のためにサービスをしているかの表明は、欠かせないのではないだろうか。それは web という「館」の実体を伴わない世界にあってはなおさら、などと谷口先生のお話を思い返しては考えるのだが・・・。

そんなわけで、近頃ちょっと気になる 'Contact Us' と 'About Us'、なのである。

今回は、あえて3国立大のホームページに絞られたお話だったが、web上で同じようなサービスを提供している他の図書館サイトについての評価、そしてその中で「電子図書館」としてあることとはいったい何なのか、について、もっとお話をうかがってみたい。

テキストと情報学：異聞やまとしうるはし <<http://www.koka.ac.jp/taniguti96M/>>

EEVL <<http://www.eevl.ac.uk/>>

大図研京都セミナー2001

5月(第2回)セミナー「電子図書館の評価」の感想!



羽衣学園短期大学 川崎 千加

現在は個人が求める情報に直接アクセスする。図書館を介して、あるいは図書館にある情報にアクセスする場合にも、その要求は多様になっている気がする。

また、図書館サービスが個人個人の要求に個別に対応することが以前より高まった気がしている。提供の仕方ひとつにしてもメールや電子媒体を求める人もあれば、紙で欲しいという人もある。

個別の対応をしていく場合、やはり図書館員にも個人として対応する部分が増えてくるのではないかという気がした。

図書館ホームページが広報からレファレンス機能＝大学の研究や教育資源としての機能を高めるものになったということを改めて意識し増した。

大図研京都支所セミナー

「ネットワーク環境下における書籍のサービス」の発表者募集中!

1人あたり、発表時間は30分、質疑応答は20分で構成されます。

意欲ある方は奮って応募して下さい。

応募先は

井上雅人まで

立命館大学総合情報センター情報管理課

〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1

Tel:075-465-8222 Fax:075-465-8252

E-mail:ino-mst@st.ritsumei.ac.jp

大図研京都のホームページ URL

<http://www07.u-page.so-net.ne.jp/rg7/dtkk/index.htm>

大図研への入会、メーリングリスト加入は、ここから出来ます!

会費納入のお願い

2000年度までの会費未納の会員さんは、至急会費の納入をお願いします。
 また、今月は総会の月です。会費は、原則的に前納制をとっていますので
 会員の皆さんの2001年度会費を総会後速やかに納入されますようお願いしま
 す。会費の問い合わせは財政担当支部委員の金森孝之さん、又は
 最寄りの支部委員又は、編集子までお願いします。

第9回京都支部委員会報告

日 時：2001年6月5日（火）19:00 - 20:30
 場 所：京都大学附属図書館3Fスタッフルラウンジ
 出 席：大館、金森、篠原、呑海、赤澤（オブザーバー）、吉田（オブザーバー）

【審議事項】

1. 支部総会について
 - 1) 議案書について
 - [第1号議案] 2000年度活動総括及び2001年度活動方針
 - [第2号議案] 2001年度より支部会費を2000円にする
 ・一部字句修正の上、最終案を決定した。
 - [第3号議案] 2000年度決算報告 2001年度予算及び会計監査報告
 ・大図研京都セミナーの収支決算は6月で区切って、2000年度決算
 に入れることを確認した。
 - [第4号議案] 2001年度役員選挙
 ・現支部委員を一部入れ替え、候補者を提案することになった。
 - 2) 懇親会について
 - ・行わないことになった。
2. 大図研京都セミナーについて
 - 1) 第2回セミナー（5月26日）について
 - ・セミナー参加者数40名（事前申込者数49名、当日参加申込2名）
 - ・懇親会参加者数18名（事前申込者23名）
 - ・収支決算は赤字の見込み。
 - ・受付場所を後部入り口の側に設置したことにより改善された。
 - ・進行については問題なかった。
 - ・次回からは配布物の確認をする。
 - ・次回からは受付において在る資料の案内をする。
 - ・懇親会については前回の反省が生かされず、赤字になったので
 次回は料金設定について確認する。
 - ・懇親会担当を交代する。次回は金森支部委員が担当。
 - 2) 第3回セミナー（6月23日）について
 - ・役割分担は第2回と同じ。
 - 3) 編集小委員会の設置について
 - ・セミナー関係の出版を計画する
 - ・呑海（支部委員）、赤澤（オブザーバー）、吉田（オブザーバー）
 の3名で編集小委員会をたちあげる。

@@@@@ 大図研京都支部 支部報複製版 (CD-ROM) @@@@@

創刊号～150号 (1978/10/28～1997/8/15) の約20年間分収録
 ■京都支部報の読者 特別価格2,000円 (送料無料) で販売します。